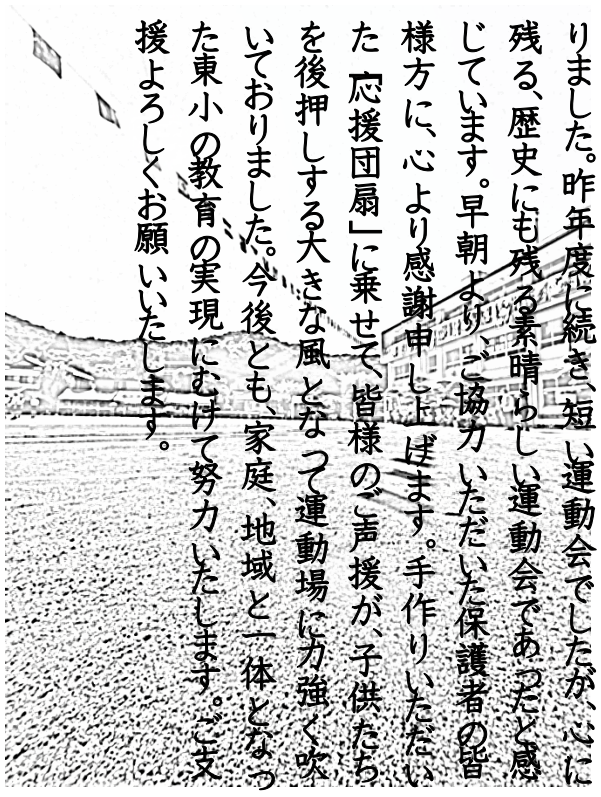
教育目標　「ふるさとを愛し、夢に向かって頑張る子どもの育成」～えがおいっぱい　げんきいっぱい　いのちいっぱい　東っ子～

東小だより

皐月号

二十三日 日曜日、梅雨の晴れ間に恵まれ、保護者の方々に見守られながら運動会を開催しました。今年は運動会スローガン 感謝 全力 優勝 笑顔輝く 日本一の運動会」を掲げました。東っ子全員で日本一を目指しました。スローガンを作り上げた運営委員の子どもたちは、スローガンに「日本一になるのは、東っ子一人一人だ。そしてそれをきめるのも、東っ子一人一人だ。」という思いを込めました。スローガンをめあてに運動会に臨み、一歩進んだ自分を見つけようということです。この思いを胸に秘め、全員が、日本一の自分を目指し競技に取り組みました。短い準備の期間でしたが、本番に向かって、よくがんばってきた東っ子でした。取組を通して、雨にも負けず、風にも負けず、仲間と協力し合うこと、もてる力を出し尽くすこと」その大切さを学んだ行事であったと感じます。その姿は、本年度掲げた 笑顔大作戦」であり、笑顔と優しさを作り出す活動でもありました。昨年度に続き、短い運動会でしたが、心に残る、歴史にも残る素晴らしい運動会であったと感じています。早朝より、ご協力いただいた保護者の皆様方に、心より感謝申し上げます。手作りいただいた 応援団扇」に乗せて、皆様のご声援が、子供たちを後押しする大きな風となって運動場に力強く吹いておりました。今後とも、家庭、地域と一体となった東小の教育の実現にむけて努力いたします。ご支援よろしくお願いいたします。



「白団団長　寺田　爽馬くんの言葉」

僕が運動会で頑張ったこと。一つ目は、演舞です。時間を見つけて一生懸命練習しました。その成果を本番で発揮できました。二つ目は、応援です。いつでも、どこにいてもしっかりとみんなを応援することできました。三つ目は、リレーです。練習の時と違い、バトンパスを成功させることができました。一位になれなかったけど、全力で走り抜くことができました。心に残ったことは、親子巧ち走です。小学校最後の運動会で、お母さんと一緒には走ることができたこと、とてもよい思い出になりました。もう一つ、一年生から、自分の名前を呼んで応援してもらったことです。やる気が高まりました。とてもうれしかったです。運動会で意識して取り組んだ 礼 返事 あいさつ姿勢」を、これからの学校生活にもいかしていきたいと思います。

「赤団団長　冨永柊裡梛さんの言葉」

私は小学校最後の運動会で思い出に残ったことが四つあります。何といっても一番は、赤団みんなで協力して、優勝旗を手にすることができたことです。二つ目は、応援団演技でのエール交換 演舞 ファイアーボール）です。本番まで、大きな声を出し、応援団と赤団のみんなで協力して演技をおぼえたり、大きな声を出して頑張ってきました。その成果が全部出せてよかったと思います。三つ目は、ダンスです。跳んだり、はしゃいだりと、とても難しいダンスでした。フラッグ演技も、とても難しかったですが、みんなと心を合わせてやり通しました。最後は、親子競技です。親子で力を合わせて一位を取れました。最高の思い出になりました。運動会を通して、みんなで協力すること、本番に向けてしっかりと練習を繰り返すことの大切さを学びました。学校生活に生かしていきたいと思います。

東っ子の品格をつくる四つのこと

集団生活を送る上で、大切にしていきたいものがあります。他者とよりよい関係をつくる基盤となるものであるとともに、身に付けることによって、品格を備えた人間へと変容するものです。それが「あいさつ返事 感謝の心 素直さ」の四つです。本年度、本校でも取り組みを進め、子供たちの人格づくりの一助としたいと考えています。その一つである「あいさつ」は、「立ち止まって、名前を呼んで」。「返事」は、「は」と「い」は同じ大きさで、はっきりと」という行動様式をもとに進めています。この二つは、日常頻度が高く、意識した行いで、身に付き、心まで達する力があると考えます。掲げた、残りの「感謝の心」と「素直さ」への窓口として、まずは校内で取り組んでいきたいと思います。ご家庭においても働きかけを、よろしくお願いいたします。

人権意識を高める

私と小鳥と鈴と」という金子みすずの有名な詩があります。よく目にし、耳にする詩です。最後の連にある「みんなちがって、みんないい」は、含蓄があり、読み手に納得とともに、新たな視点を与えてくれます。人は、他人をうらやましく思うことがあります。そんな時はきまって、相手がすばらしく見え、自分というものが小さく見えがちです。だから、自分もそうなりたいと背伸びをしてしまうのではないでしょうか。そんな人間の自然性に相反し、この詩には自分の良さがはっきり表現してあります。「自分にないものをうらやましがるのではなく、自分のもつ個性や特徴を、もっと大切にしよう。」ということが表現されているように感じます。自信を持つことの大切さ、自分への誇りこそが、自分を伸ばし、自分自身を愛することにつながります。そして、そんな人間であれば、他の人への「憎しみ」や「ねたみ」「いらだち」をもたず、他の人への思いやりがふくらみ、人を愛することのできる人間へと成長できるのだと思います。「私」と「小鳥」と「鈴」はまったくちがうものですが、そのちがいこそが一番良いものではないでしょうか。まさに、人権尊重の精神であると考えます。十三日には、本校が取り組んでいる「人権の花 種子伝達式」がありました。育てる花の生長に、東っ子の人権意識の高まりと重ねていきます。現在、連休明けにまいた花の種が発芽し、ぐんぐんと大きくっています。その生長過程を観察するのが楽しみであり、その姿に愛おしさを感じています。取組の様子については、お便り、ホームページを介して、報告いたします。

あとがき　本を読んでいたら、おもしろい話が載っていました。題は「自由ってなんだい？」というものです。「なるほど」と感じたので、紹介いたします。

「かあちゃん、自由って、一体なんだい？」すると、かあちゃんは突然、ロープで僕を強くしばりはじめました。「かあちゃん痛いよ！　なにすんだよ！」ロープでぐるぐるにされた僕は、手も足も動かせなくなりました。かあちゃんに泣いて助けを求めました。そのとき、僕は気づいたのです。「そっか。僕はずっと自由だったんだ。」

ここに登場した「僕」は自由がどんなものかに気付きました。その結果、自分が、これまでずっと幸せだったことも、そして今も、これからも幸せであることも気付けたように思います。とても意味深な話です。日常生活において、生きることの本質を何気ないことからふっと気付くことがあります。その機会を求めて常に視野を広く、高く持ちたいものです。

感謝・全力・優勝　笑顔輝く　日本一の運動会